



消化器系疾患

犬の巨大食道症



慢性的な逆流が犬の巨大食道の特徴的な臨床症状です。

後天性巨大食道症は、遺伝性よりも一般的で、特発性と特定の疾患の二次性症状があります。巨大食道症の犬は、カロリー摂取量の不足により体重が減少し、体調不良に陥ることがあります。また、誤嚥性肺炎を発症することも多くなります。

巨大食道症の犬の栄養管理は、逆流を最低限にし、二次性の誤嚥性肺炎を防ぎ、適切な体調と体重を回復または維持できる栄養を与えることに重点を置きます。

キーメッセージ

- 巨大食道症の犬は、一般的に、逆流を最小限に抑え、誤嚥性肺炎の合併症を避けるために、頭と上体を起こした状態（上体を床に対して45度から90度の角度にした状態）で飲食する必要があります。
- 食後15～30分は直立か仰向けの姿勢を保ち、重力によって食物が食道から胃に移動するようにします。
- また、食後30分間は運動を制限する必要があります。

(次のページに続く)

ご存じでしたか？

巨大食道は、犬の逆流の最も良くある原因です。

キーマッセージ (続き)

- 栄養豊富で消化の良い食事を少量ずつ、1日3~4回に分けて与えます。
- 逆流を抑えるために、食物の粘度を変えることが必要な場合があります。犬によって、食べられる粘度が異なるため、いろいろな水分量を試して、愛犬に合う粘度を見つけるよう飼い主に依頼します。
- 弱った犬や、誤嚥や逆流が頻繁に起こる犬には、胃栄養チューブの設置が有効な場合があります。
- 体型と体重は、9段階のPurina・ボディ・コンディション・システムを使用して注意深く観察し、再評価のたびにスコアをカルテに記録します。

追加のリソース

Gaynor, A. R., Shofer, F. S., & Washabau, R. J. (1997). Risk factors associated with the development of canine acquired megaesophagus. *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 211(11), 1406–1412.

Knipe, M. F., & Marks, S. L. (2016). Megaesophagus. In L. P. Tilley & F. W. K. Smith, Jr. (Eds.), *Blackwell's five-minute veterinary consult: Canine and feline* (6th ed., pp. 859–860). John Wiley & Sons, Inc.

Mace, S., Shelton, G. D., & Eddlestone, S. (2012). Megaesophagus. *Compendium: Continuing Education for Veterinarians*, 34(2), E1–E8.

Ridgway, M. D., & Graves, T. K. (2010). Megaesophagus. *NAVJ Clinician's Brief*, 8(11), 43–48.

Washabau, R. J. (2003). Gastrointestinal motility disorders and gastrointestinal prokinetic therapy. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 33(5), 1007–1028.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。